

平成19年度「特色ある大学教育支援プログラム」

全学的一斉授業公開制度 を軸とするFD活動

流通科学大学教育高度化推進センター

[内容]

はじめに 取り組みの狙いと発想

1. 取り組みの概要
2. 取り組みの特性
3. 取り組みの組織性
4. 取り組みの有効性
5. 過去の申請からの改良点
6. 今後の展開

はじめに 取り組みのねらいと発想

授業方法・内容改善

学習効果の向上

全授業を公開

参観して学ぶ

公開して学ぶ

1. 取り組みの概要

全学的一斉授業公開制度とは

OCW(オープンクラスウィーク)制度

各セメスターの3週間、専任教員の全授業を参観可能とし、参観申し込みがあった授業は公開

2. 取り組みの特色

(1) 制度導入当時の二つの「壁」

1. 教員の不安や危惧



運営指針・実施要綱の制定：強制されない
同僚間の学びあいのシステム

2. 運営の複雑さ・膨大な事務作業



OCWシステムの開発：Web上で手続き

2. 取り組みの特性

(2) 高い公開性と透明性の効果

OCW制度

参観申込みのあった
授業を全て公開



「普段の授業」の改善

類例の多い制度

指定された科目を
指定時間に公開



「特別の授業」を準備

2. 取り組みの特性

(3) 短期間で「公開」と「参観」を体験

OCW制度

期間中の
授業を全て公開



semesterごとに
公開体験

他大学の事例

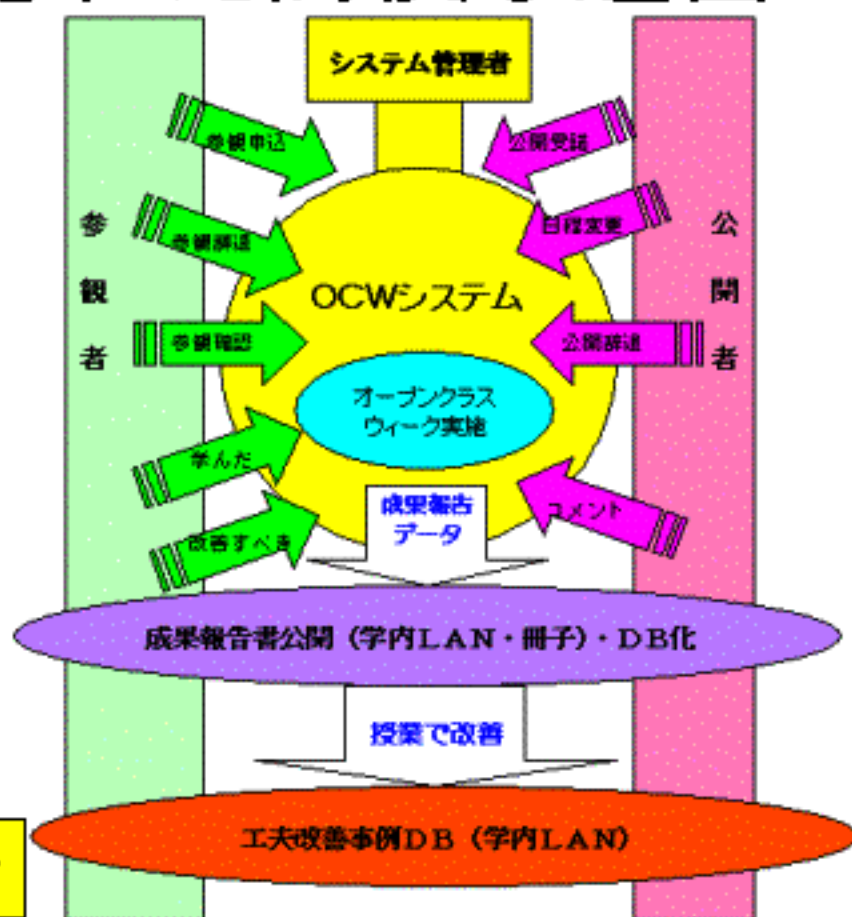
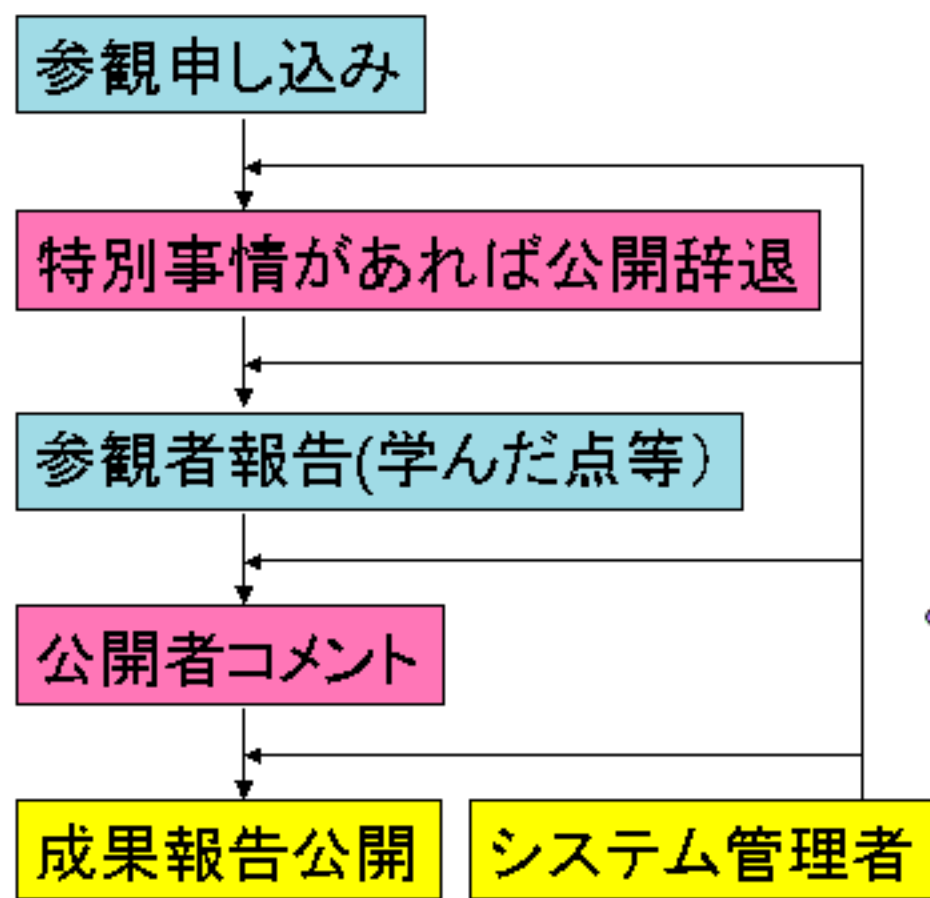
全教員の授業
を順に公開



公開体験までに
時間がかかる

2. 取り組みの特性

(4) システムに支援された簡便な運営



参観者 公開者 システム管理者 の使い勝手が良い

2. 取り組みの特性

(5) 事例の自動蓄積

OCW制度

システム上で
成果報告作成



事例の
自動蓄積

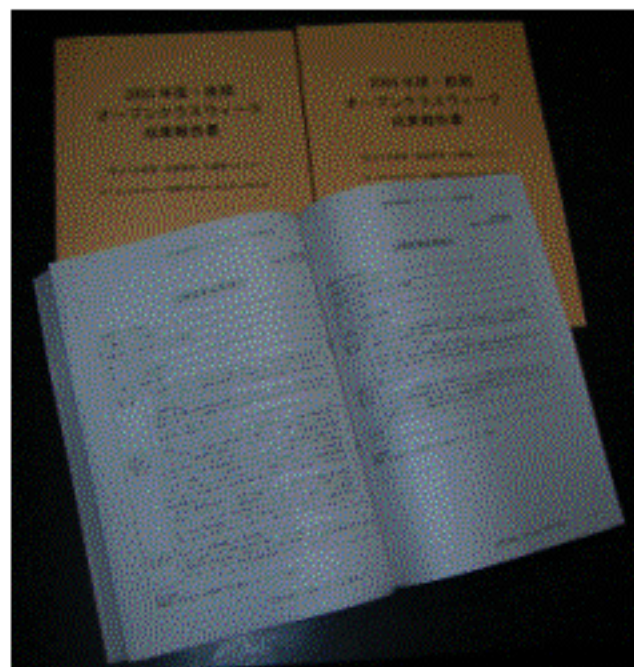
類例の多い制度

検討会発言
を記録



事例集等は
新たに編集

成果報告書



2. 取り組みの特性 (5)事例の自動蓄積 成果報告・公開者コメント記入例

- 参観者 流通太郎 実施日時2007/06/26(火)×時限 教室0123
科目○×構造論 公開者 大学花子

- **学ぶべき事項**

- 授業開始前より担当教員が入室しており、定時に授業が始まった。
- 学生を授業に参加させるため、教室を巡回しながら学生に質問をしていくやり方は良い。

- **改善した方が良いと思われる事項**

- 資料を11:30ごろ配付されていたが、そのころに資料を取るために遅れて入室する学生が40人くらいおり、工夫が必要では。また資料に全て記入してあるため、教室の後ろ半分の学生は、講義中に寝ていたり私語をしてノートを取っていない。資料の配布を授業開始時のみとし、資料中のキーワードのような大切な項目を空欄にして、授業中に書き込ませる等の工夫を検討された方が良いと思われる。

- **公開者コメント**

- 来年、キーワードの記入すべき資料を工夫してみたいと思います。

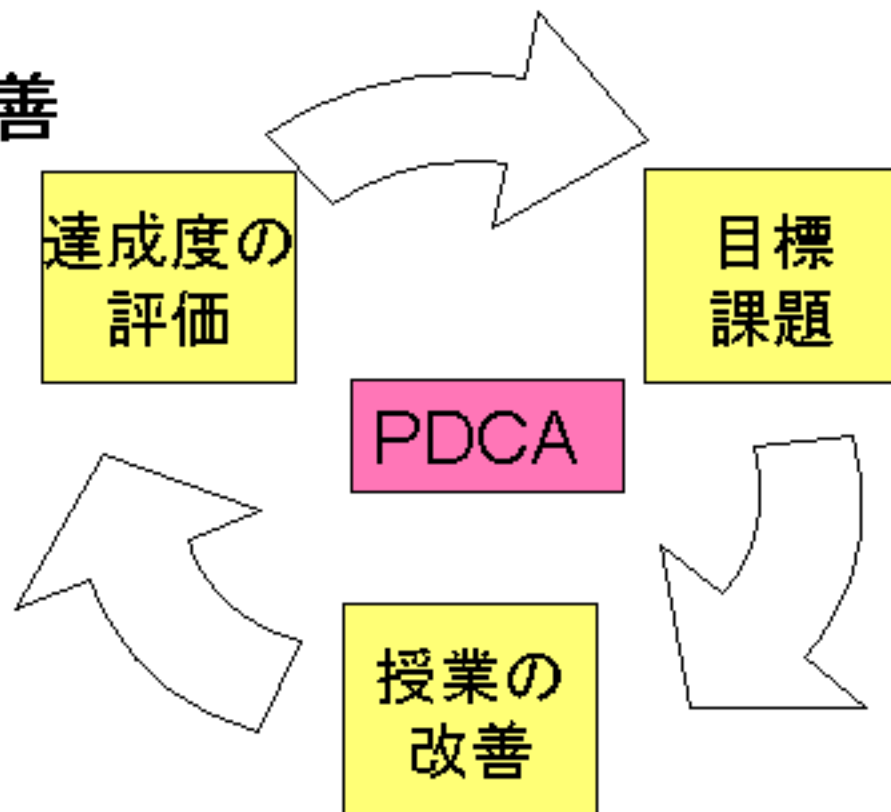
2. 取り組みの特性

(6) 各教員の教育方法・内容改善推進

1. 新教員評価制度導入 給与へ反映 動機付け強化

2. 教員各自がPDCAで改善

「教育研究等活動報告書」



3. 取り組みの組織性

- 公開・参観実績 (3年半7期)

全専任教員が公開、大半が参観

延べ公開科目数670

延べ参観数1110

専任教員115人の平均公開回数9.7回

教職員167人の平均参観回数6.6回

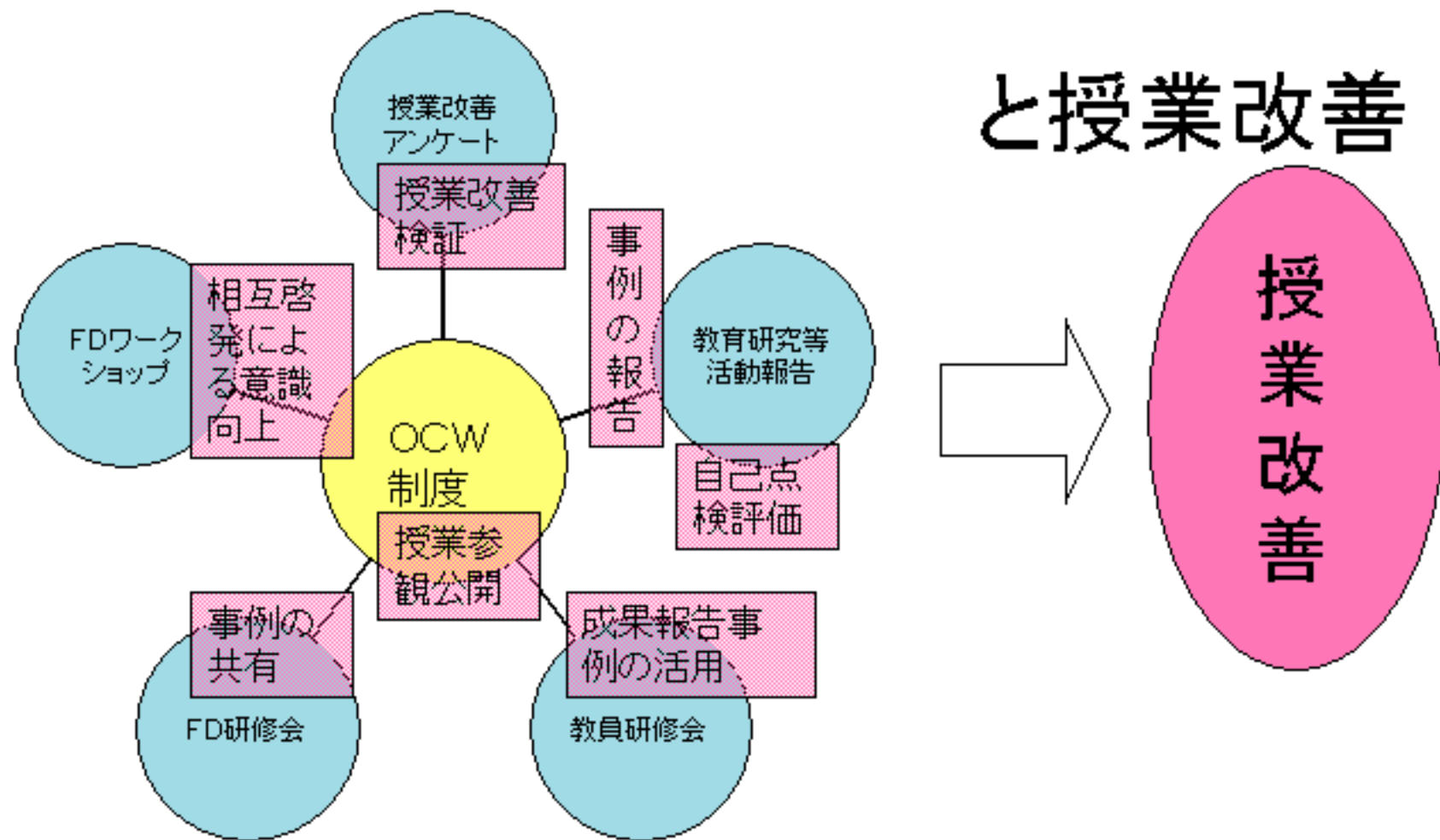
- 組織

教育高度化推進センター(平成17年4月)

センター長は学長会議メンバー

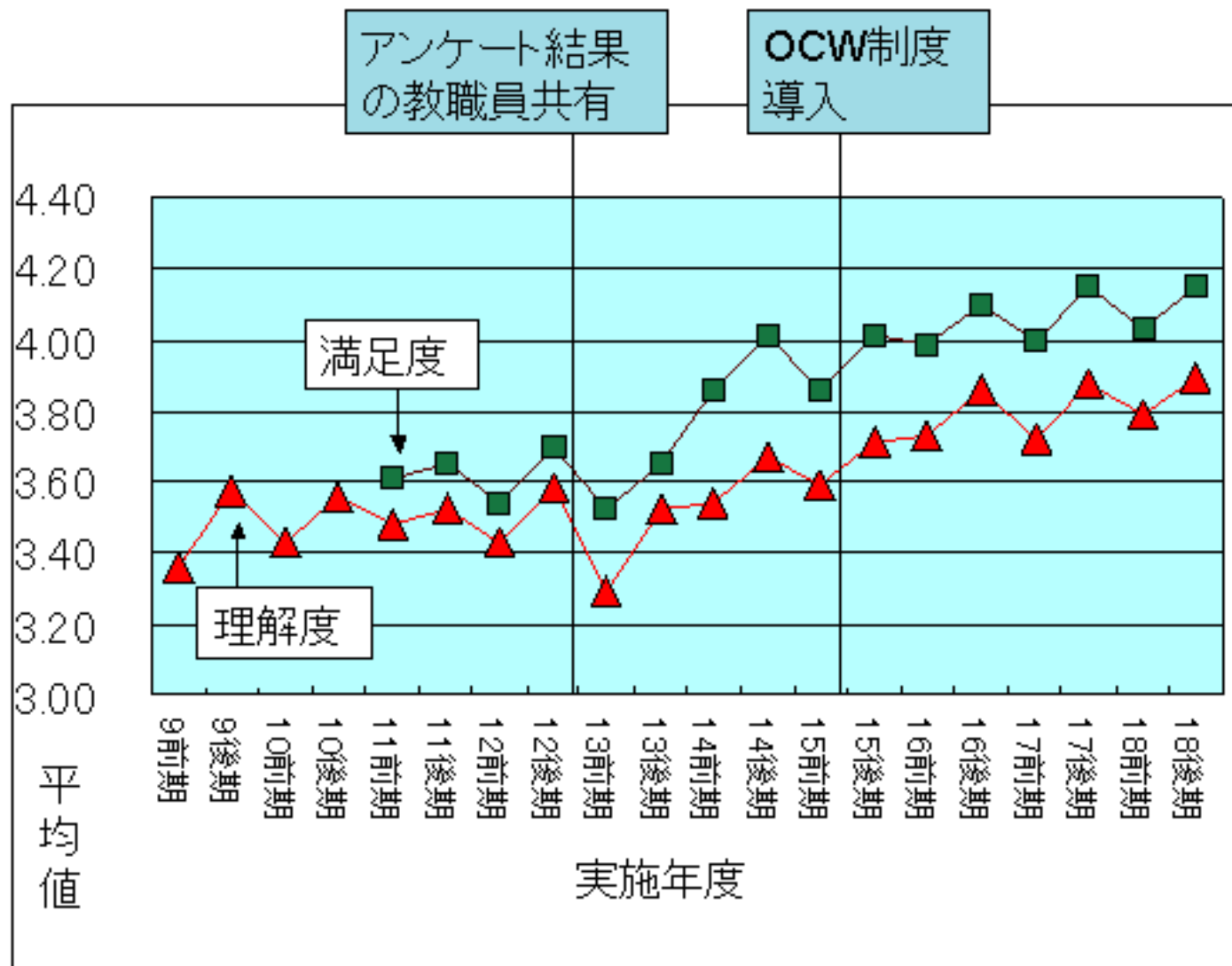
4. 取り組みの有効性

(1) OCW制度を軸としたFDの活性化



4. 取り組みの有効性

(2) 授業アンケート理解度・満足度の向上



4. 取り組みの有効性

(3) 出席率の向上・1年生退学者の減少

- ・学生の一人当たり授業改善アンケート回答数

(出席授業数)

平成14年

8.63



平成18年

11.47

- ・1年生退学者数

平成14年

44名



平成18年

11名

4. 取り組みの有効性 (4) 他大学への波及の可能性

OCWシステム説明会

2005年度 2006年度に
合計4回開催

21大学が参加

参加大学の他にも多数
の問い合わせ、資料請
求があった



5. 過去の申請でのご指摘を受けて の改良点

- ・H17年度 蓄積から活用への発展

OCW制度を軸としたFD活動の活性化により実際の活用事例増加

- ・H18年度 改善に対するインセンティブ

新教員評価制度の導入 給与に反映
教員自身がPDCAサイクルで改善

6. 今後の展開

(1) 申請書提出後すでに実施したこと

1. 非常勤講師への公開拡大
2. 父母への公開拡大(オープンキャンパスデー)

(2) 今後の展開

1. 授業参観範囲の拡大と意見聴取の強化
 2. 蓄積事例活用の簡便性向上
 3. システムの共通仕様化
 4. シンポジウムの開催と大学間ネットワークの構築
- 以上